

## 発想の転換が必要

曾て私が、鹿児島県漁連の常務をしていた時(1970~1991)  
私は常に職員に対し”発想の転換が必要である”ことを訴えてきた。何故かと言  
うと、私は次のような話を聞いたからである。  
ここに示した図は東京地下鉄路線図である。この図の作成には興味深い話が秘められてい  
る。曾て東京には地下鉄路線図はなかった、  
したがって多くの人が地下鉄を容易に乗りこなすことが出来なかった。  
そこで東京地下鉄営団では技術陣が幾度か路線図作りを試みた、  
しかしその挑戦は常に失敗の繰り返しであった。  
因みに東京には多くの道路が施設され、それらは複雑に張り巡らされている。  
そして地下鉄の路線はその下に敷かれている。  
それ故に地下鉄路線図の作製は困難を極めたのである。  
何故なら、若し図面作製に取りかかった際、その小さ紙面は常に真黒に近い状態  
になってしまうからだ  
ところで、およそ50年程前の頃、川北秀世という青年が、発想を切り換えることによっ  
てこの地図作製に成功したのである、時に若冠25才であった。  
まず彼は、紙面に縦ての駅の所在を記した。  
そして次に複雑にカーブする路線を直線で描いて駅と駅を結んだ。  
そしてら路線図は見事に完成することが出来たのである。  
彼がマップ作りを思いたち、それに挑戦した時は東京芸大の学生であった。  
彼は卒業しても就職することなく、  
未完成のマップ作り立ち向かっていたのである。  
マップ完成後、彼は東京にデザイン会社を立ち上げ、  
社長におさまった、会社は順調に運営されているという。  
最近(1991年1月頃)、米子市に在る、水産研究所が次の様な実験に成功したと知った。  
先ず海水の入った容器に魚を入れ水をセ氏7度に下げ冷たくすると魚は眠る。  
今度はその水温を徐々に上げると魚は眠りから覚める、という実験だ。  
私はその事を知った時驚いた。  
何故なら、今まで冷たい水の中で魚を眠らせることなど考えも及ばなかったからである。  
したがって多くの人が地下鉄を容易に乗りこなすことが出来なかった。  
その年の3月、我々はこの方法で眠らせた魚を飛行機で東京の市場に送り、実験に成功した。  
しかしこれに要する輸送コストが、企業化上唯一の問題点であった。  
私はこの解決に取り組もうと考えた直後、5月に県漁連を退社することになった。  
若しその時、職にとどまっていたならば、確言は出来ないが、成功することが出来たかも知れない。  
思えば残念なことであった。

